

●技術情報

Q&A

[6] 作物別施用法（工芸作物他）

Q6-9-3 コンニャクイモに対して上手な使い方を教えてください。

A6-9-3 昔から、コンニャクイモの栽培は堆肥による土づくりが必須の技術でした。しかし、堆肥の確保が難しくなり、群馬県では冬期の緑肥作物の栽培と、春先の石灰窒素施用による青刈りすき込みが指導されています。

方法は、コンニャクイモの掘り取り後なるべく早い時期に、ライ麦を8 ～ 10 kg / 10 a 無肥料で全面に播種します(播種時期が遅くなるほど発芽率や、その後の生育量が劣るので播種量を増やす)。翌春のコンニャクイモ植え付けの半月～ 1ヵ月前(4月ごろ)に、ライ麦の生育量に合わせて石灰窒素を10 ～ 30 kg / 10 a 施用し、すき込みを行います。(立毛のままプラウ耕あるいはハンマーナイフモアで切断後ロータリ耕)

その後、必要なら土壤消毒を実施し通常どおり植え付けを行います。
このとき基肥は減らす必要はありません。